

松山信裕議員



● まちづくりについて
● 勝山市の防災関係について

そのほかの質問
・環境について

※シビックプライド…「都市に対する市民の誇りや愛着」「まちをよりよくするために、自分自身が関わる」当事者意識に基づく自負心。

一般質問

問 勝山市においては、シビックプライドはどのような現状と想われ、また、更なる醸成を高める取り組みについてどのように取り組んでいくのか。
答 子どもたちに勝山市に住み続けたいかという意識を育むため、勝山市を「住み続けたいまち」にする取り組みを推進している。シビックプライドの醸成には、市民の誇りや愛着を育むことが重要である。勝山市は、まちづくりの推進に力を入れており、シビックプライドの醸成に取り組んでいる。勝山市は、まちづくりの推進に力を入れており、シビックプライドの醸成に取り組んでいる。

問 ①行政は社会福祉協議会と平時時、災害時にどのように関わっているのか。②災害ボランティアの養成はどのように考えているのか。
答 ①「災害ボランティアセンター」を円滑に運営するため、平時時の活動を行う「勝山市災害ボランティアセンター」を昨年9月に設立した。市は、平時時には、社会福祉協議会とともに、連絡会の事務局をつとめ、災害発生時に備えて、センター設置運営訓練の実施や研修会の開催を行う。また、災害発生時には、災害ボランティアセンターの総務班に参画し、勝山市災害対策本部や県、その他関係機関との連絡を密にし、災害ボランティアセンターの運営を円滑にしている。
②災害ボランティアコーディネーターとなる方は、支援活動全体をコーディネートし、災害ボランティアセンター各班のリーダーとして、センターの中心的な役割も担っている。市としては、予めそのような認識を持って活動いただける方を選んで、研修会を開催しボランティアを養成していきたい。

近藤栄紀議員



● 勝山市建築物耐震改修促進計画について
● 勝山ニューホテルの今後について
● 若者のU・Iターン者向け支援について

一般質問

問 当市の民間住宅における耐震化率は47.6%と低水準であるが、勝山市建築物耐震改修促進計画の平成28年度改訂版では90%以上と目標を掲げているが、どのように耐震化率の向上を図るか伺う。
答 市では、木造住宅の耐震化率を上げるため、補助事業を実施している。国の交付金、県の補助金を活用し、1万円の個人負担もあるが、耐震診断と耐震補強計画を作成できる。平成27年度末までに141件の実績があるが、そのうち耐震補強工事を実施した件数は13件に留まっている。これまでの実績をみると、補助制度があるとはいえ、個人負担額の大きい事が耐震補強工事の進まない大きな要因となっていると考えられる。
今後、耐震化促進に向けて、市広報、ホームページ等での周知、防災研修開催時等に耐震補強工事の必要性を周知し、少しでも耐震化率の向上を図りたい。

問 勝山ニューホテルは4月より東急リゾートサービスを指定管理者に指定しスタートしたが、次回10年後の指定管理期間満了までに今後の方向性を定め、10年後継続か否かを含めた将来の対応を考える必要があると思うがどうか。
答 今回の指定管理期間中に、勝山市公共施設等総合管理計画と整合性を図りながら、10年後の施設の存廃も含め十分に検討する。
問 若者のU・Iターン促進に向け、当局独自の支援策を検討する考えはないか。今後、若者のU・Iターン者の移住、定住促進をどのように考えるか伺う。
答 以前実施していたが、人口増につながらなかったため廃止した給付型の支援策について、改めて導入すべきかどうか、研究していく。また、待機児童ゼロといった子育て環境の整備等、他の地域では受けられない特色ある施策は、地味ではあるが、恩恵や制度が持続可能で、若年者の移住促進のほか流出抑制にも効果が期待できる。今年度、新たに設けた関係部局からなる移住定住促進庁内会議で、緩急織り混ぜた施策について検討を進めており、可能なものから予算化し、実施したい。